

3. 傾斜区分

自然再生区域及びその周辺一帯は、50mメッシュで区切ると 1481 メッシュに分けられ、そのうちいわゆる災害発生が予想される 35° 以上のメッシュは全体の約 10%で、その反面レクリエーション活動が可能な範囲と思われる 10° 以下の地域は全域の約 31%になった。(図 1-5)

このように、神於山一帯は、起伏に富み脆弱な地質基盤からなっているため非常に自然災害を受けやすい地勢であることが判明した。

表 1-1 傾斜度区別のメッシュ数に対する面積割合表

区 分	メッシュ数	面積割合 (%)
レクリエーション ($0\sim10^{\circ}$)	457	30.86
傾斜安息角 ($10\sim23^{\circ}$)	402	27.14
土砂流亡危険区域 ($23\sim35^{\circ}$)	480	32.41
土砂流亡危険区域 (35° 以上)	142	9.59
合 計	1481	100.00

「神於山（里山）植生調査業務（現況編）」岸和田市 2004/03

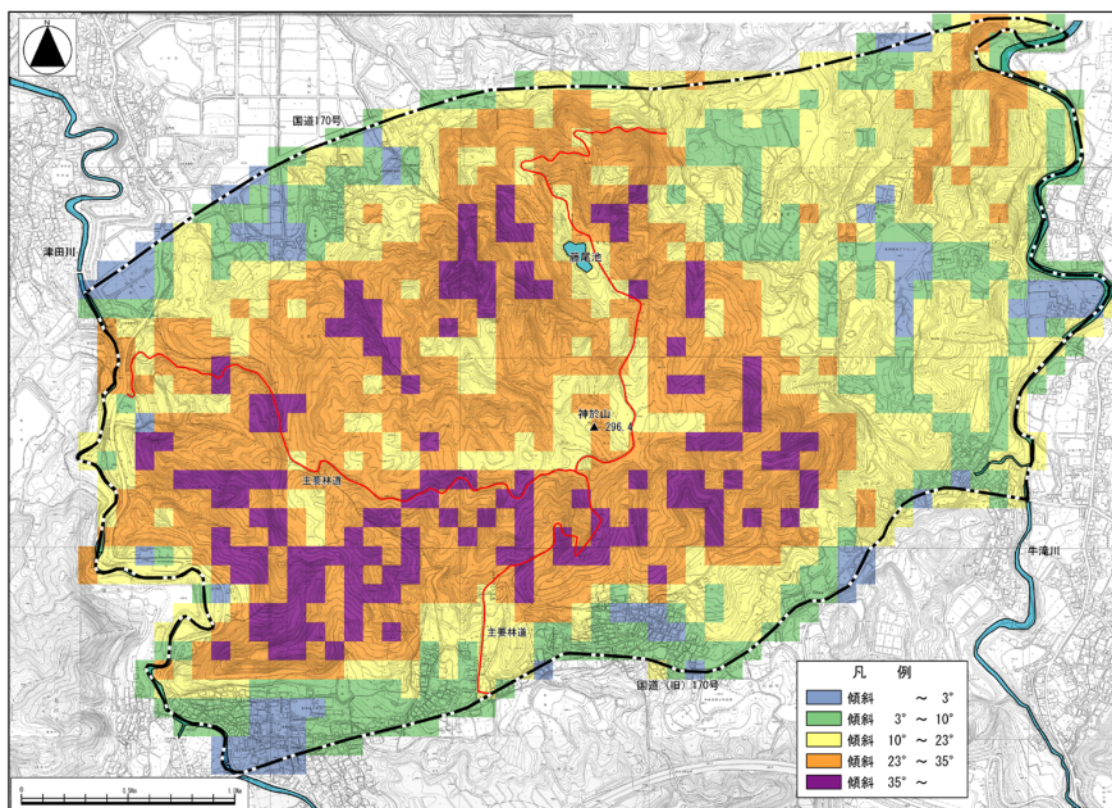


図 1-5 傾斜区分図 「神於山（里山）植生調査業務（現況編）」岸和田市 2004/03